

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル音明かり・詩明かり(音明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	平成24年9月6日	評価結果市町村受理日	平成25年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail%2010_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372201109-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail%2010_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372201109-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年9月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「生きてるってすてき！」と思えるうち作りが我がグループホームの願い。利用者の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいはみんなと力を合わせることで生活できるはずと模索している。たとえ認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割作りに着目しながら生活している。日々の活動では天気の良い日は散歩に出かけ、雨が降ったら縫物をしたり折り紙をしたり・・・晴好雨読の生活を。地域に認知症を知らせるのも私たちの大切な役割と思っている。どんなことに困るのか。どんな支えがあれば普通に生活できるのか。家族の一杯一杯になってしまう気持ちはどこからきているのか。共に考え続ける事業所として夏祭りや運動会には地域とともに楽しんでいる。年々参加者・ボランティアが増え続けている。近くの児童館からは七夕やクリスマス会のお誘いがあり、子供たちとの交流も大切にしている。付き合ひも長くなるにつれ、私たちの得意・不得意が伝わりほほえましい光景を目にすることが増えた。もっともっと出かけて皆さんと交流したいと思っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、元々あったユニット(音明かり)と後に増設したユニット(詩明かり)で構成しており、9人1ユニットをひとつの「家」と考え、それぞれのユニットで行事を企画していること等が当ホームの特徴である。そのため、ユニット毎で雰囲気や異なっている部分があるが、広々とスペースをとって、利用者も参加しやすいキッチンや配置している部分は共通している。ホームの周辺は、田園地帯となっており、利用者にとってのんびり散歩を楽しむことができ、ゆったりと過ごすことができている。このように考えられたホームであるが、理念については難しい言葉ではなく、「生きてるってステキ！」という、誰もが願う共通の想いを理念とし、日々の実践につなげている。また、ホームの行事の開催についても積極的であり、地域と相互の交流につながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方のボランティアを積極的に来て頂き、本来の日常生活を見て頂いたり、学習会では理念を唱和している。自己決定の尊重や自立支援、虐待防止等、地域や家族と連携を図り実践している。	職員間で理念の共有に努め、毎月のミーティング時に唱和して実践につなげている。職員は、一人ひとりがこれまでに歩んできた生活歴を大切にしながら、その方の人生が素敵なものになるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から孤立する事無く、近所付き合いや地元の活動、住民との交流に積極的取り組んでいる。ゴミ捨てや清掃作業、買い物や散歩時、近所の方々と会話を楽しく頂き交流を図って頂ける様にサポートに取り組んでいる。	ホームでは、地域住民の一員として町内会に入会し、夏祭りにはボランティアによる模擬店の出店もあり、地域の方との交流が図られている。夏祭りの行事は、恒例のイベントとして地域の方に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者や職員は積極的、強制的に講習会や研修等に参加している。・地域推進委員会などで事業所の取組を理解して頂き、意見等を参考にして支援の方法を、地域の人達に向け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回二ヶ月に1度開催する運営推進会議では、市役所職員・民生委員・町内会・老人会・利用者家族・地域包括支援センター等、出席して頂き、ホーム内での活動状況などの意見交換を実施。終了後、毎回昼食の試食を行っている。	会議では、現状報告や行事予定等が報告され、情報発信ができるように話し合いが行われている。また、会議を通じて、地域の子どもみこしの休憩場として、ホームのスペースを提供する取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が主に市役所の担当と、地域運営推進会議や書類交換などの機械を見つけ定期的に意見交換を行っている。他事業所職員と意見交換や訪問行い、サービスの向上を目指している。	市の担当窓口に出向き、解決に取り組んでおり、ホームの行事内容についても相談し、地域の小学校から椅子等の備品を借りるための支援を受ける等、市職員との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家と言う空間を提供している為、身体拘束及び玄関等の施錠をせず、自由に出入りできる圧迫感の無い生活を送って頂いている。どんな事があっても、拘束は行わないと言う姿勢を全職員が持っており、日々の業務に活かしている。	ホームでは、職員への理解、浸透を図るため、2か月に一度の研修会を2回実施することで、全員の職員が出席できるように取り組んでいる。また、玄関の施錠を行わず、職員が見守りながら、家族と気軽に交流できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修に定期的に参加行い、学んだ事を他の職員と共有し、日々のケアに活かしている。高齢者虐待防止については余り知らないもので、今後勉強して行きたい。新人職員4名の言葉。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や書籍等で学び細かく説明できる様、知識向上に努めている。勉強会で学び理解をし、職員間での把握も出来ている。・成年後見制度について余り理解しておらず、今後の課題として学習して行きたい。(新人2名)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には最初の時点で、しっかりと話し合い説明等行うことで理解を得られている。法改定等行う際、必ず家族会を開催し理解して頂ける様に説明を行っている。・契約の凍結に携わっておらず、評価不可能。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との交流会があり、運営に反映させる機会多くある。利用者の日常生活を把握し、訴え等には、絶えず傾聴し説明等行い面会に見えた際、コミュニケーションを図る事で実施している。	家族会を年3回開催し話し合いを行っており、さらに、ホーム便りを毎月発行し、利用者の様子を伝えている。また、請求書や領収書に意見や要望を求める文言を付け加えることで、問題解決につながるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットのミーティングに参加して下さったり、毎朝の申し送りで話を聞いて下さる。定期的な面談の場を設けてあり、利用者の状況や実情を、直に知っている現場の職員の意見や提案を聞く機会を設け反映に繋げて頂いている。	職員会議の場には、女性のマネージャーが同席することで、女性職員が多いホームで意見が言いやすい環境の実現に努めている。また、職員から個々に相談できるように、管理者も含め意見交換や問題解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける様に配慮行い、対応している。希望の休暇を取得できたり、職員を良く見て見え、悩み事など相談に乗って下さる。家庭的な雰囲気職場で環境、条件整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合った外部の研修を提案して頂き、内部の勉強会にも参加させて下さる。・参加出来なくても他者のレポートにて学ばせて貰える。現在6ヶ月目に入るが、所内の研修に4回参加し勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	夏祭り・バザー・カラオケ大会・運動会等のイベントに招待、他の施設の関わりや、グループホーム同士の交流を持ち関係作りを行っている。施設の見学会等の参加し、意見交換行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の不安、ニーズに応えられる様に、どんな小さな内容にも耳を傾け、信頼関係を作る努力をしている。意思疎通が困難な利用者には特に注意を払い、不安を感じない生活が送れる様に努めている。信頼関係築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者とユニットリーダーが面談を行い、施設内見学して頂き、生活状況等の説明を行っている。ご家族にはアセスメントシートを作成して頂くことで、不安や要望を把握説明出来る様に努めている。その家族自信をも受け止める努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの場に徐々に馴染み、安心納得しながら利用できる段階的な支援の工夫を行い、ケアマネージャー、管理者と相談をし適切な対応を行っている。本人や家族様より相談された事は、管理者及びリーダーに報告意見のずれ違いに注意。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として共に過ごし、学び支え合う関係を築き、一人一人の自己決定や個性を大切に、家族の様な関係を築けている。…先輩と違い、利用者の方と相談する事もあるが、一方的な事もあり今後の課題とし努めて行きたい。(新人1名)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者は家族であり、人生の先輩でもある為得意な事を教えて頂き、その方らしい過ごし方をして頂ける様に努めている。ご家族との絆や信頼関係を大切に、とても良い関係が築けている。…今後の目標です。(新入職員3名の評価)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡、訪問を大切に、手紙の返事も行き、支援している。レクリエーションを用いてドライブに出かけ、思い出の地などを巡り、馴染みの人や、場所との関係が途切れない様に努めている。…実際に行った事が無い。新人2名。	家族との外食や買い物を楽しむ等、関係が途切れないような支援に努めている。また、家族との間が疎遠になりがちな利用者には、電話や手紙での連絡を行う等、つながりを継続できるよう心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者9名が、もう一つの家族と思って下さり、団結力が強く、全員参加の行動、自然に出来ているユニットである。今後も支援行う。…御利用者同士の関係が徐々に理解できる様になり、それを考慮した支援を目指している。…(新人1名)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用者の状態等を考慮して、携わる事ができている。ご家族との信頼関係を重視し、サービス終了後も近況報告を頂いている。サービス終了後を経験しておらず、今後その様な事があれば努力したい。新人3名の自己評価。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成するにあたり、1対1で話し合い自分としては、こうされたいのでは？と思われる事の提案を行い、思いや希望が叶わない事もあるが、出来る範囲で支援を行っている。利用者からの信号を見逃さない様にケアに努めている。	アセスメントシートの記入には、家族にも協力してもらい、利用者の様子や言動を記録している。さらに、担当者制を採ることにより、担当者が別様式のシートに身体状況を記録することで、2つのシートを用いて、アセスメントとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活環境の把握や、ご家族の情報を参考にし、全職員で把握出来る様にしている。ご家族に利用者の馴染みの物を持って来て頂き、生活しやすい環境の提供経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定、生活記録やコミュニケーションから読み取れた状況の把握に努めている。傾眠の状態、両下肢浮腫やアザ等の観察を行い接している。有する力は、まだ知らない部分多いので把握できる力を身につけたい。新人職員2名		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報提供や利用者の意見等を元にアセスメントやケースカンファレンス実施している。本人にとって相応しい介護計画を作成出来るまでに至ってないので、ミーティングや職員同士で話し合い計画をたてている(新人職員)	職員間でモニタリングを行いながら、ユニット毎の会議で一人ひとりの状態を確認し、家族からの情報提供も加えて、4か月に一度、見直しを行っている。なお、急変時の場合は職員に伝達し、随時見直して職員間の情報共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤と、一日の流れに沿って経過を細かく利用者の言葉や対応を、記録に残している。夜間時も3時間おきの巡回の記録残している。他に口頭や、申し送りノートや特記事項を活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営法人が他の場所で開設した、小規模多機能事業所の利用者との交流がある。利用者の急変時や、重度化など、一人一人の要求に応じて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多くのボランティアの協力にて、趣味の世界を体験して頂く機会昨年より今年と、かなり増えている。個々に役割を持って頂き、安心して生活できる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診や受診を、掛かり付け医にお願いし医療支援を行っている。掛かり付け医との連携を図り、常時対応して貰える様努めている。往診にもすぐに来て頂き、柔軟に対応支援行っている。	ホームでは、入居時にかかりつけ医について確認している。受診については、家族での対応を基本としているが、状況により職員も対応している。また、日常的にも勤務している看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員が籍を置き、バイタルの異常や異変に気づいた時の処置、転倒転落吸引等の必要時に対処行っている。また外出時、長距離の遠足にも付添不安なく出掛ける事ができる。初期の段階で異常に気づき大事に至っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、不安なく施設に戻る様に家族と共に連携取り、病院関係者と情報交換等に努めている。病院関係者との関係作りにも、十分配慮行い注意を払っている。退院後の準備をすぐに、出来る様に対応行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望、利用者本人の最後まで此処で過ごしたいと希望されること多く、重度化や終末期に向けた取り組み始まっている。家族会で終末期に向け事業所で出来る事の説明行われ、ご家族に了解得ている。	当ホームでは、看取りについては行わないこととしていたが、利用者の状態、家族の希望もあり、ホームとしては話し合いを重ねながら、看取りに向けた支援についても対応策を検討を行っている段階である。	市内の医療機関から、緊急時について介護事業所内での対応を増やしてほしいという要請もあるため、今後に向け、関係する医療従事者とも連携しながら、より踏み込んだ対応に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の勉強会や研修に参加し、応急処置や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。転倒骨折された利用者の骨折部に、ペットボトルで固定し病院搬送時、医師にこれもありか？と、褒め言葉いただいた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三か月に一回の防災訓練を実施し、非常用の食料や飲料水の確保、懐中電灯や利用者の薬品・リハビリパンツ・尿取りパット類の保管場所決め消費期限の確認等に注意を払っている。地域の協力体制も日頃より願っている。	避難訓練は夜間も想定し、3か月に一度、ユニット毎に行っており、利用者の避難袋の確認や職員への周知を図っている。また、地域の防災訓練にも参加し、地域の方との協力関係の構築にも努めている。	現状、ユニット毎に検討しながら、備蓄品を確保しているが、ユニットによっては備蓄品不足の認識もあるため、今後に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者のプライベート空間である居室への出入りには、必ず声掛けノックを行い羞恥的ストレスを与えない様対応行っている。介護職員より目上の方達であり、失礼のない様に気をつけている。トイレの失敗時、他者に気付かれない様に介助を行う。	ホームでは、接遇についての研修会を行い、職員は日々の関わりの中で、利用者の羞恥心やプライドに配慮しながら、言葉かけに注意している。また、失禁時には、さりげない声かけを行い、尊厳保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がやりたいか希望を聞いたり、レクリエーション等の参加、無理強いせず日々の生活楽しんで頂いている。個々のペースを把握し、その人らしく安心した生活が送れる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の出勤者は、行事等がない日の過ごし方につき、利用者の希望を聞き入れる様に努めている。可能な限り聞き入れ、天候にもよるが外出の機会も増やしている。ちょっと待って下さいね。…と言う言葉に注意を払っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は自分でやって頂き、出来ない方には職員と一緒に手伝って、外出時の身だしなみに気を付けている。移動美容院を利用される際も本人の気に行き付けて頂ける髪形にして頂き、衣類を選ばれる際も相談され、一緒に選ぶ。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは個人の有する力を発揮出来る様にしている。個々の出来る内容を把握し、役割を持って頂き活躍の場を提供している。専門の調理師、ボランティアで来て下さり、一緒に食事作り楽しんで頂いている。	献立や調理については、ユニット毎にメニューを考えており、買い物も利用者と一緒に出かけている。利用者の状態に合わせ、調理、配下膳、食器洗い等と一緒にしている。また、職員は席を共し、楽しい時間をくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を記録に残し、全職員が把握出来る様になっている。外部の研修や病院等の献立参考に、栄養バランス整った調理法を行い、高齢者の水分確保、最低でも1日1450～1600cc取って頂き、脱水症にかからない様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と起床時、就寝前の義歯の掃除と口腔ケアの実施を行い、自立の利用者と介助の必要な利用者と別れ実践している。…誤嚥性肺炎の危険ありと説明を行い、ポリデントの保管場所利用者2名を除き、職員管理行い徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	男性利用者1名、完全にリハビリパンツ卒業された。失禁は無いが、安心の為使用されて見える利用者3名見える。時間では無く、動作や訴えにより誘導行い、外出先でも自立に向けた支援に努めている。	トイレでの排泄を目標に、布パンツの使用を基本している。その方の状態に合わせ、声をかけてトイレに案内し、必要な方には排泄チェック表を作成して、パターンの把握に努めて、トイレでの排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や日常生活での運動を取り入れ、個々の状況を把握し対応している。排泄チェックを見て水分運動等の働きかけを行っている。…余り出来ない。今後の課題で努力して行きたい(新人1名)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は一応決まっていますが、希望があればいつでも入浴可能であり、清潔保持に努め、シャワー欲等24時間・いつでも利用出来る。脱衣所や浴槽内広く、二人一組の特に仲の良い方で雑談や民謡を唄い楽しまれて見える。	曜日や時間が決まっているが、毎日の入浴も可能であり、拒む方には、声かけを工夫したり別の日に行っている。さらに、柚子湯や菖蒲湯等、季節に楽しみも設けている。また、新ユニット増設時に、重度化への対応を見据えて機械浴を導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は他者とフロアにて過ごされ、一人居室で過ごされること少ない。夜間時に覚醒されたり、不穏訴え見られる時は、職員傍に寄り添い不安消えるまで傾聴行い、安心して眠れる様支援している。居室の暗闇・恐怖心煽り、暗闇にしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後、処方箋の確認行い、個人の生活記録に綴っている。薬の変更等時、申し送りノートを活用し、全職員把握出来る様に努めている。誤薬の危険についても、勉強会や研修等で学び徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を活かし、施設の行事等・習字・手芸・民謡・コーラス・落語・絵画と日々楽しまれて見える。興味深い物に参加される表情、活気あり気分転換の支援行い、利用者の役割分担も決まっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1週間に1度のモーニング、ランチ、ディナー、月1度の遠足、曜日事の買い物等と外出の機会多い普段行けない所へは、遠足を利用し出掛けている。家族の希望があれば、動向して頂き一緒に楽しんで頂く。地域の方の親切と協力感謝し、好意に甘えさせて頂いている。	ホームでは、ユニット毎の外出が行われており、利用者の希望や職員の企画で出かけている。さらに、利用者の生活習慣に合わせ、喫茶でのモーニングも行っている。また、家族にも声を掛け、弁当を持って外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力がある御利用者には、財布管理して頂いており、自身で必要な物は買い物に出掛け購入して頂いている。…まだ、使う場面に立ち会った事は無いが、ご本人の希望に沿える様に努めて行きたい。(新人2名)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話する際は、本人の状況を説明したり可能な限り、本人との会話を楽しんで頂いている。夏祭りや運動会の案内状や、暑中見舞い・年賀状等を書いて頂き出している。家族は大変喜ばれて見える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて居用空間を飾ったり、御利用者に描いて頂いた絵、及び遠足の写真などを飾り楽しむ事の出来る空間を提供している。全員参加の季節感を重視した、壁紙等作成している。また、観賞用の金魚飼育、全利用者興味を持たれ、毎日話掛けられたりと楽しんで頂いている。	ホーム内は、ユニット毎に飾り付け等の雰囲気異なっているが、どちらも天井を高くとり、キッチンもゆったりとしている。さらに、リビングの一角にピアノが置かれてあり、ボランティアの訪問時等に演奏を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	名前の記入が無くても、自然と同じ場所に腰を下ろされ、全利用者仲が良く、気が合わない方は見えない。食事の席も同様に、いつも同じ席に見え居場所の工夫の苦労はない。独りの時間を好まれず、全員が一緒にないと逆に探される。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある物や、使い慣れた自身のタンス等持って来て頂き、過ごしやすい様に工夫を行い、違和感のない生活を送って頂ける様に支援している。	元々あったユニットの居室は、家具を自宅から持ち込んでいる方が多いが、増設したユニットでは、備え付けのベッド、家具がある。また、家族が持ってきた飾りや馴染みのある物を置いたり、それぞれ個性のある居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに近く、車椅子や補助車でも、余裕を持って移動出来る様、バリアフリー化してあり、安全に使用出来る様に工夫している。個々の能力に応じ介助の幅を広げ、自立支援を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームチアフル音明かり・詩明かり(音明かり)

## 目標達成計画

作成日:平成24年8月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	利用者に対して一方的な言い方をしてしまう職員のケアの向上	認知症の理解を深め、必要とされる援助方法を身につける	一方的なケアをしている場面をとらえ、利用者の気持ちを共に推察する 意見交換をしながらケアの方向を変えていく	12ヶ月
2	37	利用者が自分で行う前に口や手が出てしまう職員がいる	利用者の持っている力を見極める	利用者が「自分でできること 出来ないこと」の見極めはミーティングを通じて職員間で共有していく	6ヶ月
3	50	買い物時は職員で金銭を支払っている。	自分でお金を払える利用者は、自分で支払いを行う	買い物の支払い時等では、利用者に財布を渡し、言われた金額が出せるよう支援していく。出来る喜びを感じてほしい。	3ヶ月
4	35	災害時の対応策が甘い	迅速かつ的確な判断と行動ができるよう職員の意識を高める努力を行う。	マニュアルを見直し、改善した方がよいと思われる個所は積極的に改善していく。チームで行動できるよう訓練を行う。	12ヶ月
5					ヶ月